

製品名: PKI β ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16217**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	

抗原情報

遺伝子名	PKIB
別名	PKIB; PRKACN2; cAMP-dependent protein kinase inhibitor beta; PKI-beta
遺伝子 ID	5570.0
SwissProt ID	Q9C010
免疫原	抗血清はヒト IPKB 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 29-78

背景

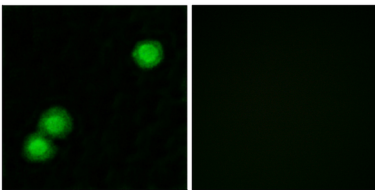
プロテインキナーゼ（cAMP 依存性、触媒性）阻害剤 β (PKIB) ホモサピエンス この遺伝子は、cAMP 依存性プロテインキナーゼ阻害剤ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、PKA の触媒サブユニットと相互作用することで、

プロテインキナーゼ A (PKA) 経路において役割を果たしている可能性があり、この遺伝子の過剰発現は前立腺癌において役割を果たす可能性があります。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2012 年 7 月]、機能: cAMP 依存性プロテインキナーゼ活性の非常に強力な競合阻害剤であるこのタンパク質は、cAMP 誘導による調節鎖の解離後に、酵素の触媒サブユニットと相互作用します。類似性: PKI ファミリーに属します。、

研究分野

タンパク質リン酸化; セリン/スレオニンキナーゼ; PKA; がん; シグナル伝達; タンパク質リン酸化; セリン/スレオニンキナーゼ

画像データ



IPKB 抗体を用いた MCF7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。